

校訓  
至誠励業  
剛健成風  
操守堅固



発行者  
東京福中・福高同窓会  
〒160-0023  
東京都新宿区西新宿7-21-21  
西新宿成和ビル3F  
黒永会計事務所内  
TEL 03-3363-0118  
FAX 03-3363-0366  
Eメール  
office@tokyo-fukuchufukkou.jp

## 活躍する同窓の仲間たち

### 日本ラグビーに新風を吹き込む 福高ラグビーの輝き

2020年の東京オリンピック候補ばかりが話題になる昨今。だが、どっこい、「ラグビーW杯2019日本大会」開催に向け、いまラグビー界に吹く「新風」を忘れないでいただきたい。それは、昨年1月13日、国立競技場での第49回全国大学ラグビー選手権決勝に国立大として初進出し、帝京大に挑んだ筑波大の躍進と、その筑波大をけん引した「福高ラグビー部卒」の選手たちの活躍、さらに筑波にあつて日本代表での存在感を増す福岡堅樹さん(2年・63回)の「ワイルドクラスのスピード」の快走に象徴されるだろう。この新風が、他大学や全国の高校ラグーマンに刺激を与え、国民のラグビーへの関心を高めているのは間違いない。そこで、松下彰吾さん(4年・61回)、彰吾さんの弟の真七郎さん(3年・63回)、やはり63回で2年の奥山道陽さん、そして福岡さんの筑波大4選手に登場いただいた。ちなみに福高ラグビー部は、今年7月に創部90年を迎える。

### 躍進、筑波大4選手も伝統の魂の当たりで成長!!

中学の大先輩も「頼もしい後輩たちに感激の活躍」今回、「福高ラグビーの若き群像」を取り上げたのは、中学23回の麻生昭先輩からいただいた編集部宛ての手紙が一つのきっかけだった。ラグビー好きの麻生さんは、昨年の大学選手権決勝戦をテレビ観戦していて「頼もしい後輩たちに感激し、「生き甲斐というか、楽しみが一つ増えた」と有難く感謝している」と綴ってこられた。

この麻生さんの思いを筑波の選手たちに伝え、同窓の皆さんにも選手たちの活躍ぶりを伝えよう



'13/12/15 vs Nihon Univ

と企画したのだが、スケジュールがぎつしり詰まっていた。そんな時、助け舟を出してくれたのが「福高ラグビー部OB会」事務局の藤田克道さん(33回)と森伸明さん(49回)。福高ラグビーのことをはじめ、4人や大学・社会人で頑張っているOBのことなど貴重な周辺情報をたくさん聞かせてもらい、人の紹介もしていただいた。ラグビー仲間のつながりの強さ、深さを感じたのだが、これは出身校が違っても同じで、最終行き届いた気配りで面倒な4人同時のインタビューを上手くセッティングしてくれたのは、選手兼チームの広報担当、藤田幸一郎さん(4年)だった。宮崎北高出身の藤田さんは、「それにしても福高同窓会のつながりはすごい」と。

福高ラグビー部の評価の高さを示すエピソードを紹介したい。筆者のささやかな体験ながら、5年ほど前、経営者向け情報誌の「リーダーシップ」をテーマにした対談記事のまとめをすることになった時のこと。著名な経営コンサルタントのAさんの対談相手は何とラグビートップリーグの強豪、

次ページへ続く



あの清宮監督も認めた  
福高ラグビー

どトップリーグで活躍する選手は58回生以降およそ35人。それだけに、時には福高同窓対決や同期対決、さらには兄弟対決も。実際、11月24日の関東大学対抗戦の筑波対青山学院戦では、松下兄弟、奥山さん、福岡さんと青学の谷山俊平さん(63回・写真左)がまみえた。

サントリーサンゴリアスの清宮克幸監督(当時)だった。ところが、ラグビーをあまりご存じないAさんは、どう話を切り出したものかと心配気だった。

清宮さんは新興校の大阪府立茨田(まった)高校3年だった昭和60年に花園出場、高校日本代表の主将としても活躍、早大、サントリーでも中心選手、主将としてリーダーシップを発揮し、大学選手権、全国社会人大会、日本選手権でも優勝。さらに監督になってからも早大の優勝、サントリーの強化など、その優れたリーダーぶりは分野を超えて経済界からも高い評価を受けていた。



'13/11/10 vs Seikei Univ